

歴史探訪

其の186
History Inquiry Club



文化財課 ☎ 22-1720
(博物館) FAX 22-2028

移りゆく西山の風景

立馬崎(小中山町)から伊良湖港まで10km以上続く防潮堤があります。この防潮堤の東側には、愛知県の飛砂防備の保安林、さらに東側の西山地区一帯には大規模な農地が広がります。この農地は戦後の開拓によって開墾された土地です。では、開拓される以前、この地域はどのような風景だったのでしょうか。

江戸時代に書かれた『伊良湖名所記』(元禄6年【1693】杉江道



●亀山村堀切村中山村小塩津村境界墨引絵図(田原市博物館蔵)

雲著)には、慶長15年(1610)2月23日に徳川二代将軍秀忠が旗本をはじめ諸侯を率いて立馬崎に来て狩りをした様子が書かれています。その中に「此西山ハ東西ハ二十三町ヨリ廿四五町二過ヘカラス、南北ハ二里余ニシテ松樹数十万株、白砂平穩ニシテ盤上ヲ走ルカ如シ」とあります。この記述から、西山は東西1.3〜2.7kmほど、南北8kmほどの範囲に松の木が生えて、平坦な砂地であったことが分かります。また、絵図からも当時の風景を知ることが

できます。寛文11年(1671)に作成された『亀山村堀切村中山村小塩津村境界墨引絵図』を見てみると西山松林と書かれ、天白川の西側の西山一帯が松林であったことが分かります。

明治34年、陸軍は西山地区を試砲場用地として買収することを決定し、明治38年には伊良湖集落地を含めた西ノ浜沿い一帯も買収しました。その後、昭和20年の終戦まで伊良湖射場として運用され、翌年、国策開拓が始まります。さまざまな困難の末

この地域一帯は大規模な農地となりましたが、昭和28年の台風13号、昭和34年の伊勢湾台風などにより、西ノ浜海岸沿いだけでなく西山開拓の農地まで、多大な被害がありました。これらの台風被害

●昭和60年ごろの保安林と農地の風景(田原市博物館蔵)



の影響もあり、昭和35年から39年にかけて防潮堤の建築が行われました。その後も海岸沿いの保安林の整備がたびたび行われ、現在の風景となっています。現在も保安林の松くい虫防除や改植が行われているため、風景が年々変化しています。

今、皆さんが住んでいる地域は昔どのような風景だったのでしょうか。今も昔も変わらないこともあり、変化しているかもしれません。変化するには何かしらの理由があります。今度調べてみてはいかがでしょうか?面白い発見があるかも知れません。

(清水)